

令和2年2月25日

2月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では好天が続き、原木生産は良好。入荷は一部地域で弱いものの、日光・鹿沼地区、八溝地区は順調である。製材工場によって原木在庫にバラツキがあるが、原木の凍結がないため順調な製材生産で、原木の荷動きも良い。しかしスギ、ヒノキ原木とも製材品の売れ行きが不振で全体的に弱気配となっている。間伐材、小径木も弱気配だが、荷は動いている。

群馬県では降雪が少ないせいか、出材は多く集荷は容易である。スギ、ヒノキ原木とも価格は安定傾向にある。工場土場の在庫は一気に増え満杯の状況。年度末に向けての受注生産で操業は順調。依然、地場需要は低調で公共工事以外は少ない。製品在庫は売れ行き不調で増加傾向にある。製品価格は低位安定で推移。

2. 米材

カナダ沿岸部の大手製材企業で原木供給大手のWFP社のストライキは現在も継続中で、今月で8ヵ月目になる。私有林保有の最大手のMOSAIC社も11/25から伐採停止中で、再開の具体的な日程は公表されていない。このためカナダの港頭在庫はほぼ払底状態で、需要が米国側にシフトし、米国の港頭在庫も急激に減少中である。産地輸出価格は10月比で\$40~50/千SC程の上昇。2月積みIS級並の推定は前月比+10ドルの\$850になった模様。製品市況について、ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/31)は\$388/Mで、1月頭に比べ3.5%上昇。米国商務省はカナダ産針葉樹製材品に対するアンチダンピング、相殺関税率の削減を仮決定した。

12月の原木入荷量は254千 m^3 、2019年で2番目に多い入荷となった。1~12月累計で2,431千 m^3 (前年同期比4.8%減)。出荷量は223千 m^3 と復調、1~12月累計は2,412千 m^3 (同7.1%減)。通年で入荷・出荷量とも東亜林業の撤退の影響が数字に表れている。在庫量は増加し186千 m^3 と、依然1ヵ月割れが続いている。米マツ製材品の荷動きは鈍化しているが、競合品である欧州産RW集成平角の2020年第1・四半期の価格が反転上昇で決まり、米マツ平角価格も現状価格で底打ち。東京木材埠頭の1月入荷は17千 m^3 (前月比11.8%増)、出荷は17千 m^3 (同0.4%増)、在庫は37千 m^3 (同0.4%減)。

3. 南洋材

サラワク州では旧正月で伐採現場の従業員は殆ど引き上げ、原木生産は低水準。各国からの引き合いは弱い。1月後半から雨量は減っている。PNGでは2020年2月1日より原木輸出税を現行の35%から59%への引き上げが決まった。新税率の適用により小手サプライヤーは採算が取れず、多くの撤退が予想される。中国の買付が非常に弱く、価格上昇までには至っていない。日本にとってもPNG材の手当が困難になる。2月予想の丸太入荷量は約8千 m^3 、出荷量10千 m^3 、在庫量32千 m^3 。フリー板の市況は非常に悪く、生産調整に入っている。

4. 北洋材

産地では冬伐り材の工場入荷が本格化し、対日主力工場は順調な生産に転じた。依然、一部工場では原木が不足している。ここ数年、良質アカマツ原木が減少し、小径木を混ぜざるを得ない状況。中国向けは回復の兆しが見られたが、新型コロナウイルス騒ぎで先行き不透明。各シッパーともアカマツ上級グレードの\$550水準を維持しようとしているが、原木入荷が順調で若干下げざるを得ない状況。日本のメーカーはアカマツ原板の仕入時期にあるが、価格は押さえておきたいという駆け引きの状態。現地挽き完成品は港頭在庫が多く、価格維持は困難で、さらに下降の懸念もある。国内メーカーはDIYからの注文は活発であるが、採算は非常に厳しい。現地挽きアカマツ完成品の価格下落もあり、原板価格の下げを期待。2月予想の原木入荷・出荷量とも14千 m^3 、在庫量は15千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)21千 m^3 、出荷量19千 m^3 、在庫量38千 m^3 。

5. 合板

合板用原木について、東北産カラマツ、スギともに出材は安定し、価格は高値張り付き。ロシアのカラマツ材の価格は横ばい推移。米材は強含みのままで、出材の先行きは不透明である。南洋材の原木状況は今のところ安定しており、価格は若干強含みになっている。

12月の国内合板生産量は29.0万 m^3 と高水準が続いている。うち針葉樹合板は27.0万 m^3 、出荷量は26.3万 m^3 となり、在庫量は12.6万 m^3 である。うち構造用合板の在庫は9.8万 m^3 となり、前月比微増となった。針葉樹合板の荷動きは年明けから落ち着いてきているが、メーカー在庫が依然低水準で価格は横ばい推移が予想される。輸入合板は荷動きが止まっている感じで、現状価格を維持しているが、若干弱含み傾向にある。12月合板輸入量は21.6万 m^3 と低水準が続いている。マレーシア産は2019年で4番目に多かったが、低水準

に変わりはない。インドネシア産は 2 番目に少ない入荷となった。インドネシアでは各工場とも原木は問題なく確保しているが、2 月以降の本格的な雨季を迎えると、出材が困難になる可能性もある。マレーシアの工場の原木在庫は減少傾向にあるが、今のところ、生産に大きな影響は出ていない。

6. 構造用集成材

2 月のラミナ入港は適正である。フィンランドでストライキが発生しているため、4 月入港分に影響が出てくるものと予想される。第 1・四半期交渉で RW 平角は 2~5 ユーロの小幅な値上がり、WW ラミナも同じく 2~5 ユーロの値上げとなった。燃料規制による船運賃、欧州内でのトラック輸送費の上昇が要因である。中欧地域の WW の虫害が拡大しており、産地製材工場の原木仕入れの停滞に伴い、対日向け製品の出荷減が懸念される。このため、価格帯の近いスギ EW の需要増加が予測される。

7. 木材チップ

針葉樹原木の入荷量は暖冬で多い。広葉樹原木も国交省河川伐採事業により出材が多い。製紙用チップは年末年始の定期修理が終わり、消費量は回復傾向にある。燃料用チップは建廃を主原料とした大型バイオマス発電所の稼働により消費量は上向き、余剰感は解消してきている。製紙用チップの在庫量は落ち着いており、燃料用チップの在庫量も減少している。チップ、原木とも運転手不足で物流・生産に支障が出ている。

8. 市売問屋

昨年 1 月頃は市場で製品が不足していたが、今年は暖冬のせい、それなりに製品は入荷している。市況が悪いため、荷動きは少ない。初市の集客はあったが、まだ仕事が本格化していないのか、国産材、外材構造材とも当用買いの域を出ていない。造作材は少量の荷動きがあるが、材が不足するといったことはない。

9. 小売

木材、建材とも 1 月中旬頃から急激に引合いが減り、2、3 月の不需要期に向かって苦戦が予想される。スギ、ヒノキ構造材に大きな変動はない。米マツ、RW 集成材に動きが見られそうだが、町場では大きな変動はない。米ツガ現地挽き製品の入荷減の影響は少しずつ出ているが、何とか集荷は出来ている。先行き欠品の懸念はあるが、米マツなどの代替材で対応する見込み。スギ羽柄材は東北地方の降雪が少ないので、入荷遅れはなく比較的順調。ロシアの暖冬の影響と中国の休み(春節)でアカマツフリー板の品薄が続き、欠品が出始めている。国産針葉樹合板の荷動きは 1 月にしては悪くないが、全体的に停滞感があり、価格は横ばい。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↗	↗	→
	製材品	→	↘	↗
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↘
			アカマツ (KD) 16×40上級	↘
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→